



しょうがつ 正月にどうしておもちを食べるの

ほんとう 本当のことはわからない

しょうがつ 正月におもちを食べるのは、なんびやくねん まえ 何百年も前からあったしゅうかん 習慣なのですが、なぜそうなったのか、ということについては、ほんとう 本当のことは、わからないのです。そこで、一つのせつ しょうかい 説を紹介しましょう。

ぞうに はじ お雑煮の始まり

おおむかし にほんじん しょうがつ 大昔の日本人は、正月には、かみさま 神様がうちにやってくるとしん 信じていました。そこでおお 大みそかの日は、あした やってくるかみさま 神様のために、おもち やさい さかな とり 魚、鳥などをそな 供えたのです。そのそな 供えものを、つぎ ひ 次の日、つまり がつ 1月1日に、いっしょ にて た 食べたのが、ぞうに はじ お雑煮の始まりのようです。

かみさま そな 神様に供えたものを食べるのは、かみさま おな 神様と同じものを食べて、そのちから わ 力を分けてもらい、1ねんかん しあわ 年間を幸せにすごそう、という意味があるからといわれています。

このお供えものの中に、なぜ、おもちがはい 入っているかについても、よくわかっていません。しかし、むかし いま 昔は今のよう、た もの ゆた 食べ物に豊かではありませんでした。食べ物、とてもたいせつ 大切なものでした。そのなか 中でも、こめ つく 米から作られるおもちは、にほんじん 日本人にとってはとく たいせつ 特別なものでした。とく たいせつ 特別なものをかみさま 神様にそな 供えして、それを、あとで た 食べたのだらうといわれています。(監修・田代 脩)

